

音楽アーティスト科 アーティスト総合コース 受講科目一覧 1年次

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間 45 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
講義	一般教養 I	74	2	4
講義	表現 I	74	2	4
講義	音楽理論/調音 I	74	2	4
講義	音楽史 I	74	2	4
実習	歌唱/演奏基礎技術 I	74	2	2
実習	歌唱/演奏応用技術 I	74	2	2
実習	歌唱/演奏実技 I	74	2	2
実習	演奏/ダンス分野別基礎 I	74	2	2
演習	アンサンブル基礎 I	74	2	4
演習	アンサンブル応用 I	148	4	8
実習	分野別実習 I	74	2	2
合計		888	24	38

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ギター/ベース/ドラム/サウンドクリエイター/ヴォーカルパフォーマンス/ダンスパフォーマンス/アーティスト総合/ネットアーティスト				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>社会人として、またエンターテインメント業界を目指す人材として、業界内で必要なコミュニケーション力を身に付けるための授業を行います。コミュニケーション力だけでなく、教養力の深みが芸術創作において多大な影響を与えていくことを把握させ、知識量の増強を図ります。また、一社会人としても人間開発が行えるように広汎な情報を提供します。</p>					
到達目標					
<p>社会人として必須条件である一般教養を身につけ、デビューや就職へ向けた準備を万全にしていきます。 将来どのような職業につくにしても人文科学、自然科学、社会科学の三分野の知識を隔たりなく、幅広く修得することが大事だという前提に立って、教養を学んで、自ら問題設定して新しい答えを探ることができるようにします。 また、知識量を効率化し自分に役立つものだけを取捨選択するといった、幅の狭い世界に陥らないような人材を目指します。 併せて、アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識や情報の提供を行っていきます。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	一般教養についての概略を把握し、教養力の重要性を説きます。また健全な生活リズムの大切さをバイオリズムの仕組みなどを通して理解し、栄養学では食べ物と健康維持の関連性に触れながら安定的な生活を送る上での重要なポイントを学習します。
【前期】 5～8回目	IT技術を通してSNSの長短をはじめとした情報へのリテラシーを学習します。また敬語を通して社会の中でいかに丁寧なコミュニケーションをはかれるかを例題を通して把握していきます。挨拶についてもケーススタディーを通して学びます。
【前期】 9～12回目	プロフェッショナルの定義を通して自らの商品性をエンタテインメント産業においてプロモーションしていく重要性を考えます。各メディア(レコード会社、レーベル、プロダクション(事務所)、音楽出版社)の違いなども認知し、自らにおける将来像の在り方も探っていきます。
【前期】 13～16回目	エンタテインメント産業の構造を理解しながらデビューや自己PRの方法論を解説していくと同時にイベント出演などの方法、また、打合せや企画書制作、プロット制作などを含むステージ作りの具体的なアプローチも学習します。
【前期】 17～19回目	会社構造への理解を深めながら特に会社組織の成り立ちを学びます。その中で礼節に着目し、対人対応の基本である身だしなみ、お辞儀、立ち振る舞いなどを理解していきます。また、社会人として席次や名刺交換のルールにも触れていきます。 ■前期試験:筆記試験にて、前期で学習した内容の理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	世界共通語の英語、特に会話に重点を置き日本語圏以外でのコミュニケーション能力のアップをはかります。また、世界地理への知識量を上げながら国外の風土や文化面などの特色も学んでいきます。
【後期】 24～27回目	日本語に着目し、漢字、ことわざ、四字熟語の読解及び使い方など、また現代文を通しては読解力をはじめ文章構成や言葉の味わいを理解し、総合的に国語力を高めていきます。
【後期】 28～31回目	日本の歴史、古代から近世、現代に至るまで年代順に時代の特色を学び、我々の文化的背景を考察していきます。また日本の暦をはじめ歳時記などの四季の事物や年中行事なども理解していきます。
【後期】 32～35回目	音楽、写真、映像など創作物における、著作権者の権利を保護するために認められた権利関係を創作者と大衆視点の両面から理解していきます。また自分の顔や姿、宣材を無断で写真・WEBなどにコピーされたり、それを商業目的に使用されることを拒否する権利を学びます。
【後期】 36～37回目	人生哲学や人生訓に触れながら、いかに良く生きるかを考えていきます。そしてそれらをスピーチ原稿の書き方やスピーチ論を学ぶことを通して自らの生きがいや夢を掘り下げると同時に、他者へ自らの考えを主張する能力を開発する。 ■後期試験:筆記試験にて、後期で学習した内容の理解度を確認する。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	一般教養は、社会人としての必須条件であり、特に就職希望者にとっては大変重要な知識となります。アーティストとして活動する為のノウハウ、音楽業界で活躍する為に必要な知識を習得し、自身の音楽活動に活かしてください。また、音楽業界に求められる人材として自己をアピールできるように、様々な教養を身につけていくことを目的としています。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルスタイル I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	表現 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ネットアーティスト				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。 ミッキー吉野(ゴダイゴ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。				
授業概要					
様々な音楽スタイル(JAZZ/BLUES/POP/R&B/FUNK/HR等)に含まれるリズム感、グルーブ感、抑揚などを自然に体で表現できるように自らの歌唱へ取り込んでいきます。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なリズム感、グルーブ感を習得し、歌唱へ反映させていく力を身に付けます。 ・歌唱するのに必要なリズム感を養い、自身の持つ声をより向上させ、様々な共鳴・声色を習得します。 ・多様なジャンルのルーツミュージックを理解し、ノリやアクセントの付け方の幅を広げます。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	課題曲①【ROCK】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 5～8回目	課題曲②【R&B】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 9～12回目	課題曲③【レゲイ】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 13～16回目	課題曲④【ミクスチャー】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【前期】 17～19回目	トータルチェック(これまでの課題曲で培った「発声・リズム・表現力・ポイント」を確認する) ■前期試験: 課題曲の歌唱により「音程/リズム/ダイナミクス/表現力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	課題曲⑤【ブルース】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 24～27回目	課題曲⑥【FUNK】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 28～31回目	課題曲⑦【ソウル】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 32～35回目	課題曲⑧【JAZZ】 ジャンルや楽曲の特徴を理解して、リズム・ノリ・表現力を強化する
【後期】 36～37回目	トータルチェック(これまでの課題曲で培った「リズム・グルーブ・表現力・ポイント」を確認する) ■後期試験: 課題曲の歌唱により「リズム/ダイナミクス/表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/ダイナミクス/表現力」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ボーカリストとして様々なジャンルが歌えるようになることは必須です。講師や他生徒からのフィードバックを聞きながら自分の魅力や武器を見つけ、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」「職業ミュージシャンとして即戦力になる」といったより実践的な歌唱を目指します。また、他者と歌を客観的に分析することにより、自分の歌唱を磨くためのヒントが見つかることも多くあります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	セオリー&イヤートレーニング		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽理論/調音 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	KAN、浜崎あゆみ、林原めぐみなど様々なアーティストのバックコーラスやレコーディング制作に携わる。 23歳の時にアニメセイバーマリオネットact5エンディング「風の詩を聴きながら」でメジャーリリース。 その後ヴォイストレーナーとして多数アーティスト(元生徒はDAIGO、太田在etc)の指導を行う。 上記の経験を活かし楽曲制作並びに音楽理論の実技指導を行う。				
授業概要					
音楽の基本的な決まり事を学ぶ「理論」と、音感を鍛える「聴音」の授業です。 理論では正確に楽譜を読み書きする能力を得ること、作曲の為の基礎知識を養うこと、音楽用語の意味を学びます。聴音では音程やリズムを耳で聴き取り、演奏や譜面におこなうことができる能力を得ます。 また、様々なジャンルの音楽の基礎知識を学ぶことにより、音楽人に必要な力も養います。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の読み書きができるようになります。 ・楽器を使わずに、耳だけで音程(音の高低)やリズムを聴き取れるようになります。 ・音楽用語を使用し、他楽器(バンドメンバー)とのコミュニケーションを可能にします。 ・インターバル、スケール、ハーモニー、コード、リズム、におけるベーシックが把握できます。 ・曲の構成を理解して、メロディとコードの関係を深く理解できます。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ウォーミングアップ発声、音符と休符、リズムのトレーニング、メジャースケール。
【前期】 5～8回目	インターバルの紹介、読譜、オリジナル作詞。
【前期】 9～12回目	テンポとリズム、ブレスのメカニズム、音域チェック、FメジャーキーとGメジャーキー。
【前期】 13～16回目	ハモリ、オリジナル作詞2、123メロディー発声、タイと付点子音。
【前期】 17～19回目	歌と発声、5度圏、聴き取り(イヤトレ)、ハモリ練習。 ■前期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレ力 / 読譜力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	オリジナルメロ作成、1234メロディー発声、16分音符リズムトレーニング、ロングブレス。
【後期】 24～27回目	ピッチトレーニング、数字インターバル、ハモリ練習、オリジナルメロ作成2。
【後期】 28～31回目	12345メロディー発声、リズムチェック、サイエンステスト。
【後期】 32～35回目	ピッチトレーニング復習、インターバル、ハモリチェック。
【後期】 36～37回目	ヒット曲のレコーディング。 ■後期試験:筆記試験にて「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレ力 / 読譜力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「譜面の基礎名称の理解 / イヤトレ力 / 読譜力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	理論をマスターして「なぜカッコ良いのか」「どうしてグッと来るのか」といったことが分かってくると、「気持ちをこめる」だけでなく「気持ちを伝える」表現豊かな音楽ができるようになるでしょう。 また、なんといってもミュージシャンは耳が命です。音楽からいろんなアイデアをキャッチできるようになりましょう。 他にも、理論や聴音を学ぶことは、今後の歌唱・演奏や作曲の手助けになるにもなります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	リズムヴォーカルの歴史と体系 I		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。 ミッキー吉野(ゴダイゴ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。				
授業概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴォーカルの為のリズムトレーニング、身体づくり、リズムの歴史を学ぶ。(リズム史=POPS音楽史) ・ヴォーカルに活かすためのリズム発声～アドリブスカットまで。 					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・漠然と歌のメロディーを歌えるのではなく、頭と体でリズムを理解し、コントロールできるテクニックを身に着ける。 ・ジャンルごとのリズムの特徴を学び、歌いまわしのクオリティを上げる。 ・体全体でリズムをキープしながら、瞬時にいかなるヴォーカルアプローチも出来るようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	リズムの種類、特徴を頭で理解し、体で表現する。「4. 8. 16beatを 足・腰・背骨・首でキープする。同時に声も乗せる」
【前期】 5～8回目	POPS音楽の歴史(リズム的観点)① 世界のPOPS音楽の流れがどのようにしてJ-POPにつながっているかを理解する。歴史的背景/ジャンル理解/ジャンルの特徴を学ぶ
【前期】 9～12回目	体幹強化① ヨガなどを使って体幹を鍛え、体に意識を向ける。骨のしくみ/筋肉の相互作用/ヴォーカリストの姿勢を学ぶ。
【前期】 13～16回目	スカット準備編(リズムを声で表す・初級 / コール&レスポンスについて) スカットとは何か?/リズム表現しやすい言葉/リズムのフィールを感じ取る/
【前期】 17～19回目	前期の復習・確認 ■前期試験:筆記試験にて「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	シャッフル・スウィングを頭で理解し、体で表現する。体でキープしながら、声でメロディを歌う
【後期】 24～27回目	POPS音楽の歴史(リズム的観点)② 世界のPOPS音楽の流れがどのようにしてJ-POPにつながっているかを理解する。歴史的背景/ジャンル理解/ジャンルの特徴を学ぶ
【後期】 28～31回目	体幹強化② ヨガなどを使って体幹を鍛え、体に意識を向ける。骨のしくみ/筋肉の相互作用/ヴォーカリストの姿勢を学ぶ。
【後期】 32～35回目	スカット本番(好きなリズムパターンを作りメロディーを乗せる/コール&レスポンス実践)
【後期】 36～37回目	1年間トータル復習・確認 ■後期試験:筆記試験にて「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「各リズムの体現・理解 / 歴史の理解 / 体の理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音の高低(音階)/声を出すタイミング(リズム)で成り立つ歌。半分をしめるリズムについて、ヴォーカリストの観点で大切な要素を学びましょう。じっくり話を聞いて噛みしめる抗議～笑い声がはじける実技～うめき声の出る体幹強化(笑)色んな側面は、すべてプロのヴォーカリストへの道につながっています。自分の中で様々な場面に当てはめて、授業の外でも理解を深めてください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォーカルテクニック I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱/演奏基礎技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	■	非該当 □
担当講師 実務経歴	福岡を中心にヴォイストレーナーとして、音楽学校や個人レッスン等で幅広く活動中。 ハリウッド式の発声法・トレーニングを採用し、多くのヴォーカリストへ歌唱力・表現力向上の為の技術指導を行う。 職業として求められる「発声法、歌唱表現力等」の指導を行う。				
授業概要					
発声のメカニズムを理解し、歌唱に必要なテクニックにつなげる。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・チェストボイス、ヘッドボイス、ミドルボイスなど声色それぞれの基礎発声をツールとして身につける。 ・発声のメカニズムを理解した上での基礎発声練習を積み重ね、声域を拡げるとともに声量、音圧など自在にコントロールできようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	教科書使用(ボイス理論1～4)
【前期】 5～8回目	教科書使用(ボイス理論5～8)
【前期】 9～12回目	教科書使用(ボイス理論9～12)
【前期】 13～16回目	教科書使用(ボイス理論13以降)
【前期】 17～19回目	教科書使用(ボイス理論まとめ) ■前期試験: 課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	基礎発声練習(チェストボイスの開発)
【後期】 24～27回目	基礎発声練習(チェストボイスの定着)
【後期】 28～31回目	基礎発声練習(弱頭声・ヘッドボイス・ファルセットの開発)
【後期】 32～35回目	基礎発声練習(弱頭声・ヘッドボイス・ファルセットの定着)
【後期】 36～37回目	基礎発声練習(ミドルボイスの開発・定着) ■後期試験: 課題曲の歌唱により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「発声メカニズムの理解 / 基礎発声の習得 / 声域」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	テクニックだけが大事なものではありませんが、そのテクニックへの理解を深めることにより自由な表現への足がかりとなります。思考のパターンをプロ仕様へと改変していきましょう。
備考	使用教科書「ヴォーカルテクニック」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ヴォイストレーニング I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱 演奏応用技術 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ダンスヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・Back Number、中村 正人(DREAMS COME TRUE)等、メジャーアーティストのコンサート時のバックアップミュージシャン ・自身もシンガーソングライターとして九州各地でライブ活動を行う。 				
授業概要					
<p>ヴォイストレーニングを通し、正しい発声の仕方、音域の拡張、共鳴のさせ方を学習していきます。 ウォーミングアップの方法・腹式呼吸の習得・表情筋の使い方・母音を正しく響かせる口の開け方など。 また、歌唱の基礎であるチェストヴォイス～ミックスヴォイス～ヘッドヴォイスの声区融合とリズム感も併せて学習します。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なスケールを用い、チェストヴォイス～ミックスヴォイス(ミドル)～ヘッドヴォイスの声区融合を身に付けます。 ・4分音符、8分音符、1拍3連、16分音符のリズムを体で理解し、歌唱へ反映させていく技術を習得します。 ・様々な歌唱テクニックを習得し、歌唱へ反映させていく力を身に付けます。 ・歌唱するのに必要なリズム感を養い、自身の持つ声をより向上させ、様々な共鳴・声色を習得します。 ・正しい音を耳(脳)へと伝え、それを表現するための方法を身につけます。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【前期】 5～8回目	低音の響き①～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き①～声帯～ / 高音の響き①～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 9～12回目	低音の響き②～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き②～声帯～ / 高音の響き②～裏声・ミックスヴォイス～
【前期】 13～16回目	総合的の反復練習 / 課題曲① (発声に意識して歌唱してみる)
【前期】 17～19回目	総合的の反復練習 / 課題曲② (発声に意識して歌唱してみる) ■前期試験: 筆記と発声の試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
【後期】 20～23回目	発声練習の目的 / 要素と役割 / ストレッチ / 腹式呼吸 ウォーミングアップ ～ハミング・リップロール・表情筋・あくび～
【後期】 24～27回目	低音の響き③～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き③～声帯～ / 高音の響き③～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 28～31回目	低音の響き④～超低音・前の響き・後ろの響き～ / 中音の響き④～声帯～ / 高音の響き④～裏声・ミックスヴォイス～
【後期】 32～35回目	総合的の反復練習 / 課題曲③ (発声に意識して歌唱してみる)
【後期】 36～37回目	総合的の反復練習 / 課題曲④ (発声に意識して歌唱してみる) ■後期試験: 筆記と発声の試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の到達度、理解度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程の精度 / 共鳴 / 知識」の3項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	発声とリズムは歌唱の基礎で最も重要な技術です。発声練習は自分の声質を把握し、より良くしていくために欠かせません。チェストヴォイス(地声)の音域はトレーニング次第で伸ばすことができます。高く歌えないと思っていた楽曲でもトレーニング次第で歌えるようになります。また、裏声や低音域をしっかり鍛えることで、歌唱の中で使える音色を多く習得することが可能です。自分の音域や癖をしっかり把握しトレーニングに励み、歌える楽曲の幅を広げましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	グループヴォーカル I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	歌唱 演奏実技 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/ダンスヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。 ミッキー吉野(ゴダイゴ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。				
授業概要					
多くの難易度の高い楽曲(GOSPEL・ミュージカル楽曲・POPS等)を通し、心の解放・ハーモニーへの理解、発声や歌唱法を学ぶ。時にはリードボーカルのオーディションを行い、生徒同士で競争することによる技術向上を目的とする。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・大人数の中で歌うために必要な知識や技術の習得。ハーモニー(ハモリ)を作ることの技術習得。 ・グループの一員としてステージに立ち、時にはchoirとして、時にはリードボーカルとしての歌唱法や立ち振る舞い、パフォーマンスを学ぶ。 ・ハモることへの不安がなくなる。 ・心を解放させ身体全体を使ってステージパフォーマンスができる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	パート分け(女子2パート、男子2パート) 1曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【前期】 5～8回目	2曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定 1曲目とともにLIVE WEEKに向けてパフォーマンス込みで練習。
【前期】 9～12回目	3曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定 1曲目とともにLIVE WEEKに向けてパフォーマンス込みで練習。
【前期】 13～16回目	4曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【前期】 17～19回目	前期まとめ(1～4曲目の復習) ■前期試験:課題曲の歌唱により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	5曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 24～27回目	6曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 28～31回目	7曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 32～35回目	8曲目:曲の仕込み(曲を聴く、パートごとに音振り、アンサンブル) リードボーカルのある曲の場合、最終週にリードボーカルオーディション、リードシンガー決定
【後期】 36～37回目	過去にやった曲の中からLIVE WEEKに向けて選曲、復習、パフォーマンス込みで練習 ■後期試験:課題曲の歌唱により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「歌唱技術 / ハーモニー / パフォーマンス / チームワーク」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	グループボーカルを経験することにより、ハーモニーに対する不安感を拭えます。また、普段は聴かないようなGOSPEL等を聴くことにより、リズム感や発声法を学ぶこともでき、大人数で声を出すことにより、心の解放や私たちの声を持つパワーを直接感じることもできます。この授業を通して様々なジャンルに触れ、多くのことを学ぶきっかけにしましょう。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	アコースティックギター		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	演奏/ダンス分野別基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	幼少の頃から本格的にクラシックピアノを20年間学び、コンクール等で多数受賞。 現在は自身で作詞作曲をジャンル問わず行いながら、鍵盤などで多くの演奏サポートや制作に携わる。 これまでに発表した作詞・作曲作品、またアレンジした楽曲は80曲以上ある。				
授業概要					
アコースティックギターの奏法を、実技だけにとどまらず、頭でしっかり理解できるような授業を目指します。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・作曲においても重要な役割を果たす アコースティックギターの様々な可能性を体験し、今後の音楽活動に活かせるようにする。 ・弾き語りができるようになる。ジャンルによって奏法が弾き分けられるようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	アコースティックギターに実際に触れ、慣れ親しむ。各部名称の把握、チューニングの方法など。8ビートの基本的なストロークの習得。オモテとウラに対応するストロークの理解。
【前期】 5～8回目	16ビートの基本的なストロークの習得。シャッフルリズムのストロークの習得
【前期】 9～12回目	ピックを使ったアルペジオを理解し習得。指弾きでのアルペジオを理解し習得。実際によく使われる伴奏パターンの習得。
【前期】 13～16回目	スリーフィンガー奏法の理解と習得。親指で低音リズムをキープすることを基本に展開し最終的な習得を目指す。
【前期】 17～19回目	前期のまとめと 奏法のおさらい。 ■前期試験：課題曲の演奏により「コードストローク/アルペジオ/スリーフィンガー/ボサノバ奏法/SSW系奏法/ブルースギター奏法/ラグタイムギター奏法」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	フィンガーピッキング ジャンル別 ボサノバ奏法を考察、習得。
【後期】 24～27回目	フィンガーピッキング ジャンル別 シンガーソングライターがよく用いるパターンを考察、習得。
【後期】 28～31回目	フィンガーピッキング ジャンル別 ブルースギター奏法を考察、習得。
【後期】 32～35回目	フィンガーピッキング ジャンル別 ラグタイムギター奏法を考察、習得。
【後期】 36～37回目	後期のまとめと 奏法のおさらい。 ■後期試験：課題曲の演奏により「コードストローク/アルペジオ/スリーフィンガー/ボサノバ奏法/SSW系奏法/ブルースギター奏法/ラグタイムギター奏法」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「コードストローク/アルペジオ/スリーフィンガー/ボサノバ奏法/SSW系奏法/ブルースギター奏法/ラグタイムギター奏法」の7項目の到達度、理解度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	いつの時代も、音楽シーンにおいてギター弾き語りは身近なパフォーマンスとして親しまれてきました。照明や音響の過度な演出に頼らずとも演者の世界観を聴衆に届けることができる、アコースティックギター弾き語りに役立つ色々な奏法の魅力を体験してください。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	キーボード		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	演奏/ダンス分野別基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/サウンドクリエイター				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	幼少の頃から本格的にクラシックピアノを20年間学び、コンクール等で多数受賞。 現在は自身で作詞作曲をジャンル問わず行いながら、鍵盤などで多くの演奏サポートや制作に携わる。 これまでに発表した作詞・作曲作品、またアレンジした楽曲は80曲以上ある。				
授業概要					
コード(和音)について理論的に学び、様々なコードやリズムパターンを覚える。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードに触ることに慣れ、コードネームだけで鍵盤で伴奏できるようになる。 ・初見でコード譜を見て、一度曲を聞いたなら弾けるようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	鍵盤の位置を覚えてドレミを弾いてみよう(運指) 【理論】スケール (Major, minor) コードについて (Major, minor) 【理論】コードの構成を覚えたら、弾いてみよう (C G F Am) 【Let it be】
【前期】 5～8回目	【実践】左手を使ってみよう 猫踏んじやった 【理論】曲を弾いてみよう (C G F Am) 【Let it be】
【前期】 9～12回目	【実践】曲を弾いてみよう (C G Em Am D B Bm) 【上を向いて歩こう】 【理論】おしゃれコードについて (トライアド、7th, sus4など) 【実践】上を向いて歩こう Bメロ込み
【前期】 13～16回目	【課題曲】実際に課題曲を用いて様々なテクニックを学ぶ
【前期】 17～19回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見ながら弾いてみよう ■前期試験: 課題曲の演奏により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見ながら弾いてみよう
【後期】 24～27回目	【課題曲】コード譜をもとにサイズ譜を作ってみよう(小節の数え方、繰り返し記号の書き方など、基本的な採譜に必要な知識の習得)
【後期】 28～31回目	【自由曲】好きな曲を、サイズ譜を作成しメロディーラインとともに弾いてみよう
【後期】 32～35回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見てメロディーラインとともに弾いてみよう
【後期】 36～37回目	【自由曲】好きな曲を、コード譜を見てメロディーラインとともに弾いてみよう ■後期試験: 課題曲の演奏により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「リズム / コード(和音) / 演奏力 / 理解力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	キーボードを演奏するには、まずキーの概念や和音の構成など簡単な音楽理論を理解することが必要です。また、左手ではベースラインでリズム感を出し、右手で和音を出していきます。最初は左右違う動きをすることやコードを覚え瞬時に和音を抑えるのに手こずるかもしれませんが、いつのコードだけで弾ける簡単な曲から始めていきますので安心してください。コード譜があれば伴奏できる・弾き語りができるレベルまで頑張りましょう。
備考	参考書「ピアノコード表」

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	歌唱実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	37回(74単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル/シンガーソングライター/ヴォーカルパフォーマンス				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	The 8th Music Revolution Hi-Gain大会でグランプリを獲得。・V3新人オーディション20thファイナリストに選出)そのポテンシャルの高さを披露。2012年には、Fukuoka Music Factoryの第6弾ファイナルアーティストに選出さる。2016佐賀年気球世界選手権応援ソングに「Life」が採用される。2020年配信弾き語りワンマンライブ「Voyage」を開催。				
授業概要	<p>バラードやアップテンポといったテーマに合わせて自分で選んだ曲を歌い、講師や他生徒からの感想やアドバイスをもらいながら磨いていく授業です。</p> <p>自分が歌うだけでなく、他者の歌唱を聞いて、見て、【音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力(表情や身振り手振り、パフォーマンス)]の4つの観点から観察、考察します。 【歌う】【聞く】【考える】のサイクルで授業を進めます。他者の歌を客観的に分析することで自身の歌唱とも向き合い、技術を磨いていきます。また、同じ曲を数週間歌い続けることにより楽曲への理解を深め、より表現力豊かな歌唱を目指します。</p> <p>歌唱力だけを磨くだけでなく、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」ステージングを意識した歌唱ができるようになる。[自身の歌唱の魅力に気づき、活かすことができる。</p>				
到達目標	<p>自分が歌うだけでなく、他者の歌唱を聞いて、見て、【音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力(表情や身振り手振り、パフォーマンス)]の4つの観点から観察、考察します。 【歌う】【聞く】【考える】のサイクルで授業を進めます。他者の歌を客観的に分析することで自身の歌唱とも向き合い、技術を磨いていきます。また、同じ曲を数週間歌い続けることにより楽曲への理解を深め、より表現力豊かな歌唱を目指します。</p> <p>歌唱力だけを磨くだけでなく、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」ステージングを意識した歌唱ができるようになる。[自身の歌唱の魅力に気づき、活かすことができる。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【自由曲①(バラード)]ロングトーンなど、歌唱の魅力が全面に出るバラードを歌います。
【前期】 5～8回目	【自由曲②(アップテンポ)]リズム感を意識した歌唱を習得します。
【前期】 9～12回目	【自由曲③(完全自由曲)]ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【前期】 13～16回目	【自由曲④(完全自由曲)]ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【前期】 17～19回目	【自由曲①～④より選択]これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことにより楽曲、歌唱への理解を深め、より自分の魅力を引き出す歌唱を目指します。 ■前期試験:課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
【後期】 20～23回目	【自由曲⑤(洋楽)]言語の壁はもちろんのこと、リズムや表現方法などが全く日本の楽曲と異なります。どんなジャンルでも歌えるシンガーになるために様々な楽曲への歌唱のアプローチ法を考察します。
【後期】 24～27回目	【自由曲⑥(楽器とのデュオ)]ギターもしくはピアノ単体の演奏とともに歌唱します。ドラムやベースなどが入ったカラオケ音源の華やかな演奏と対極な、歌と楽器のみのデュオ演奏の歌唱アプローチ法を考察します。
【後期】 28～31回目	【自由曲⑦(完全自由曲)]ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 32～35回目	【自由曲⑧(完全自由曲)]ジャンルに囚われず、自分の魅力を生かすことができる曲を選びます。曲選びも重要です。
【後期】 36～37回目	【自由曲①～⑧より選択]これまで歌い込んできた曲をもう一度歌うことにより楽曲、歌唱への理解を深め、より自分の魅力を引き出す歌唱を目指します。 ■後期試験:課題曲の歌唱により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程/リズム/歌詞(滑舌や表現)/表現力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ポカリストとして様々なジャンルが歌えるようになることは必須です。講師や他生徒からのフィードバックを聞きながら自分の魅力や武器を見つけ、「オーディションで結果を出す」「ライブでお客様に楽しんでもらう」「職業ミュージシャンとして即戦力になる」といったより実践的な歌唱を目指します。また、他者と歌を客観的に分析することにより、自分の歌唱を磨くためのヒントが見つかることも多くあります。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ライブスタイル実習 I / ライブパフォーマンス実習 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	アンサンブル応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	74回(148単位時間)	年間単位数	8単位
科目設置学科コース	■音楽アーティスト科 ヴォーカル				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	Rickie-G のバックコーラスをつとめる他、シンガーとしてライブサポート、レコーディング、社歌やサウンドロゴ等の歌入れも行う。 ミッキー吉野(ゴダイゴ)、中西圭三、HY、島袋優(BEGIN)など大物アーティストとの共演も多数。				
授業概要					
課題曲に内包されているテクニック、リズム、ハーモニーなどの類例を自らの経験値として取り込みながらバンドアンサンブルについて理解を深める。 3週で楽曲が変更。ライブイベントへ向けてのリハーサルも兼ね、パフォーマンス力、ステージング力の向上をもはかっていく。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ボーカルだけでなく各楽器(Gt. Ba. Dr.)とのアンサンブルを学ぶ。 ・曲の理解、バンド内のコミュニケーション、ボーカル以外の音の聴き方、リズムの取り方など ・楽器の音、バンドアンサンブルにおける自分の音をしっかりと聞き分け、音楽の楽しみ方を学び、 ・バンドとして一つの音を奏で、パフォーマンスも含めアンサンブルにつなげる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	1曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 9～16回目	2曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【前期】 17～24回目	3曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 過去3曲の中からLIVE WEEKIに向けてチーム決定。
【前期】 25～32回目	LIVE WEEKIに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間
【前期】 33～38回目	4曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 ■前期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
【後期】 39～46回目	5曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 47～54回目	6曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 55～62回目	7曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。
【後期】 63～70回目	8曲目：仕込み(歌詞の理解、メインメロディー、曲の構成、リズムパターン、コーラスパート) バンドアンサンブルにおける反省点を各先生からもらい、次回のアンサンブルに向けて各自練習してくる。 後期4曲の中からLIVE WEEKIに向けてチーム決定。
【後期】 71～74回目	LIVE WEEKIに向けてパフォーマンスやクオリティーを上げるためのリハーサル週間 ■後期試験：課題曲の歌唱により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の到達度を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「音程 / リズム / パフォーマンス / コミュニケーション力」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アンサンブルは音楽活動をするうえで避けては通れない技術になります。楽曲の理解、バンド内コミュニケーション、全体のサウンドにおける自分の歌の位置づけを知ることは歌のクオリティを上げるために非常に重要なことです。ボーカル以外の楽器の音を聞き分けることもアンサンブルを上達させるために必要になります。この授業を通して、楽曲の聴き方、音楽のより深い楽しみ方を学び、人と人とが奏でる音楽・アンサンブルに繋げていきます。
備考	